

広報

あいあい

第72号

令和5年10月26日

発行：西原地域コミュニティ協議会

TEL/FAX：028-635-7139

西原地域コミュニティセンター内



第62回西原地区

体育祭



*上位入賞 成績

1位	花房本町自治会	70点
2位	伊賀町北部	62点
3位	陽南東部	47点

主な内容

表紙 体育祭
2P 敬老の日に寄せて
4P 花火大会

10月8日、西原小校庭には、体育館工事のため1周100m余に縮小したトラックを開いて、校舎を背にした本部席テントと、12の参加自治会のテントが並んだ。5年振りの体育祭に、集まった400人ほどのおとなも子どもも、スタッフも心が浮き立つ。

体育協会長はあいさつで、開催の喜びとまだ必要な感染対策、体育祭の目的は各自組んでいるなど、選手の確保が難しくなっている。少ない人数での参加や合同チームでの参加、やむを得ず参加を見合わせる自治会もある中、前回まで合同チームで参加してきた茂登町は、単独チームでの参加に踏みきり結束力を示した。

定番の自治会対抗競技の玉入れ、綱引き、リレーでは、力を合わせた熱戦に、応援の声が響き渡った。

午前中ですべての競技を終え参加者は賞品を抱え笑顔で帰路についた。天候にも恵まれ、秋風が心地よい晴れやかな体育祭となつた。

「体育の日は体育祭」が恒例だった時代もあつたが、秋休み期間中の連休で他の予定を組んでいるなど、選手の確保が難しくなっている。少ない人数での参加や合同チームでの参加、やむを得ず参加を見合わせる自治会もある中、前回まで合同チームで参加してきた茂登町は、単独チームでの参加に踏みきり結束力を示した。



今後の行事予定

- 防災訓練は、コロナ禍の中で早くも流行し始めたイン
- フルエンザを考慮して中止となりました。
- 地域PTA文化祭
- ふれあい福祉まつり 令和6年1月28日
- コミセン作品展 11月18日・19日
- どんどう焼 11月19日



◆花房本町新集会所でお月見

これまで、集会所がなかった花房本町自治会では、かつて住んでいた家を地域に寄贈したいという申し出を受け、このほど、正式に空き家を集会所として運営を開始した。早速、9月29日、月見団子やイモ汁を作り、玄関や廊下にススキや秋の草花、栗や柿などを飾り、すっかり十五夜の準備は万端。20人以上の町内的人が集まつた。残念ながら、雲の間からちょっぴり顔を出す程度の満月だったが、参加者は部屋数も多く手入れも行き届いている新集会所を見て、今後さまざまな利用が考えられると喜び合っていた。

西原小PTAやYCCが手伝つた。今後もこうした取組が広がつていい。

フードドライブとは、家庭で余っている食品や企業の過剰在庫などを集めて支援が必要な家庭や団体に届ける活動のこと。SDGsの目標からも食品ロスを減らすとして全国に広がつていい。

8月30日、西原小コミセンに於いてフードバンクの協力により食品配布会を開催した。午後3時、子どもたち50人ほどがコミセン入口から2階会議室まで長い行列を作つた。

ペニー・レインやコストコから提供されたパンなどを袋に詰め子どもたちに渡すとあちこちに笑顔があふれた。配布は西原小PTAやYCCが手伝つた。今後もこうした取組が続けられるといい。

◆フードドライブって何?

【敬老の日によせて】

総務省によると全国の75歳以上の高齢者は2005万を超えて、総人口の16.1%を占める。百歳以上の人には9万2000人を超えた。西原地区では新高齢者数は96名、百歳以上は4名増え8名。総敬老者数1197名になる。

労働力調査では、仕事をしている高齢者は増加傾向にあり就業者全体の割合は7人に1人になる。仕事やボランティアなどで社会とのつながりを持つことは、高齢者が元気にすごせる健康法の一つと言えるだろう。

【百寿おめでとうございます!】

***百寿おめでとうございます!**
堀田トミさん 花房本町
京極ツカさん 陽南東部
園部三郎さん 花園町西部



☆祝! 新百歳!

18日の敬老の日を前に、百歳を迎えた花園西部の園部三郎さんに社会福祉協議会会长の檜山和子さんから感謝状と花束が贈呈された。

いほど若々しい。

「社会から一線を退いたあと人生を楽しもうと旅行、油絵、釣りなど趣味に興じていたら百歳になってしまった」と笑顔で話してくれた。

続きは次号の「古を訪ねて」で紹介します。

●新敬老者を代表して

【敬老の日を迎えて】佐藤とみ子

40代前半で宇都宮に来て、早35年いろんな事がありました。40代後半には市の海外セミナーに参加して人生を大きくかえってくれました。

50代には接客の仕事でお客様と笑顔で会話をしながら、楽しく過ごしました。

60代では、母の介護で実家を往復し、妹達と助け合いながら、10年近く施設に入居する迄、続けました。

世界トップになる中、一人ひとりが助け合い、地域の共生をして健康維持に努めています。

これからは、65才以上の割合が人口の30%近くを占め、70代では趣味の洋裁をしながら50代から続いているヨガをして健康維持に努めています。

社会の実現に向けて努力したいと思います。

●バス旅行

9月3日、子連主催のバス旅行が行われ、小学4～6年生14名、役員10名が参加した。

一行は、大洗のアクアワールドでイルカやアシカのショーや楽しんだ後、水族館を見学、その後、デッキで潮風に吹かれながら昼食をとつた。

それから、海沿いで打ち寄せれる波を楽しんだ後、大洗磯崎神社を参拝、最後に大洗マリンタワーの高さ55mの展望台から360度の眺望を堪能して帰途についた。

帰りのバスでは児童たちから地域の大人たちに感謝のメッセージが寄せられた。



「今は5人のひ孫もいて穏やかな毎日です」と話すミニ子さん。波瀾万丈の人生を生き抜いてきたその姿はいるだけで家族の励みになっている。帰り際に「頑張って生きてくださいよ」とかけてくれた言葉は、とても力強く優しかった。

あいあいサイト

★第3回 花火大会

8月19日、第3回西原地区花火大会が開催された。

今年も地域の各団体、企業、個人の皆さんから協賛金を賜り、479発の花火が一条中学校と青葉高校の校庭から打ち上げられた。歩行者天国となつた西原通りと西原小学校の校庭には、浴衣を着た家族連れなど約400人が詰めかけた。



「ドン」という地鳴りのする爆発音の

後に煌めく大輪が夜空に広がると大きな歓声と拍手が湧いた。花火を体感できるのは地元ならではのことだ。住宅街での花火の打ち上げは、事故が起きないよう花火師、消防第2分団、花房交番が万全の対策を講じて、実施されている。酷暑の中、子連、体協、PTA、YCCなどによって準備や警備、後片付けが手際よく行われた。花火大会は、地域の真夏の風物詩として住民に定着しつつある。



◆西原セミナーで『陶芸教室』

西原セミナーは、通常在校生及び卒業生の保護者を対象に行っているが、8月は夏休みの宿題を兼ねて子どもも参加できる講座にしている。

今回は陶芸教室で4組の親子が参加した。各々が楽しみながら作業していくが、工夫を凝らした満足のいく作品ができたようだ。



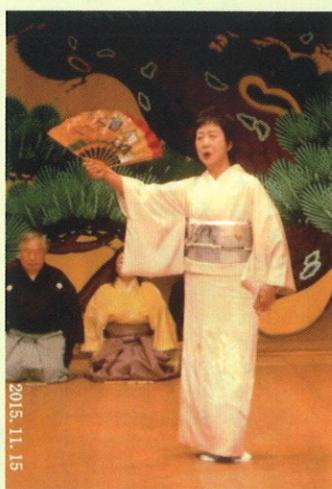
●趣味ゆうゆう

【能】観世流

西原一丁目 村田和子



年に一度のおさらい会
(東京銀座フックスに於いて)



羽衣の舞

※コミセンに日光より師範を迎えて練習を行っている。



紅葉狩の舞

《あとがき》
地域で百歳を過ぎても元気に暮らすお年寄りに共通点がある。大きな声ではつきりと話し、おしゃれなことだ。家の中ではなんでもいい派の私。自分に喝を入れるために、鏡に映る自分を意識しようと心に決めた。